

第13回合志市地域公共交通協議会

[日 時] 平成22年8月25日（水曜日） 午後1時30分

[場 所] 合志市御代志市民センター 講堂

[欠席者] 熊本電気鉄道労働組合 富田委員、熊本県自動車交通労働組合 重光委員、九州運輸局熊本運輸支局 嘉村委員、国交省九州地方整備局熊本河川国道事務所 坂本委員、熊本大学 溝上委員、(株)相互交通 園田委員、合志市商工会 上林委員

[代理出席者] 熊本電鉄(株)自動車事業部 中山様、大津警察署 井様

[事務局] 企画課長 中村、同課長補佐 北里、同課主幹 坂井、オブザーバー（コンサルタント）前田

(会議録)

中村課長：（全体で挨拶）

それでは只今から第13回合志市地域公共交通協議会を開会致します。

本日の会の進行につきましては、お手元に配布しております協議会次第に沿って進めさせていただきます。委員の皆様、それから本日ラッピング審査においでいただきました市民の皆様、議会議員の皆様にはご協力のほどお願いしたいと思います。

それではまず、齋藤会長にご挨拶お願い致します。

齋藤会長：改めまして、皆さんこんにちは。

会長を務めさせていただいております、総務企画部長の齋藤と申します。どうぞ宜しくお願い致します。

本日は第13回合志市地域公共交通協議会を開催しましたところ委員の皆様には大変暑い中、またお忙しい中、お集まりいただきまして有難うございます。

また本日は先ほど司会が申しましたように、10月から走らせますコミュニティバスの車体ラッピングデザインの審査ということで、市民の審査員を募集しましたところ今日多くの市民の方においでいただきまして大変有難うございます。是非、コミュニティバスを市民の皆様に愛していただいて、利用していただきたいということで、自分たちが選んだデザインのバスが走っているということでバスに対する愛着も湧いてくるかかと思えます。それから今日の協議会を機会に市民の皆様にはこういうバスが走っているんだということを地域の方々、いろんな方々にお話いただいて一緒に利用いただければ幸いです。

それから今日はラッピングのデザインを崇城大学のデザイン学科の方に作成していただきまして、28点の応募がありましたので、大学の先生と事務局の方で10点に絞りました。今日はその10点のデザインをされた生徒さんに説明をしていただきながら、最終的には皆さんに投票という形で審査していただきたいと考えておりますのでどうぞ最後まで宜しくお願い致します。

それから今日は10月から運行します環状バス、循環バスのルート等も決定して承認していただくという形になっておりますので最後まで宜しくお願い致します。

中村課長：はい、ありがとうございました。

続きまして、荒木市長がご挨拶申し上げます。

荒木市長：皆様、こんにちは。

今日は市民の皆様と共に自分たちの大事なバスのデザインを決めるという画期的な方法を取らせていただいております、参加いただいた皆様方に改めて御礼を申し上げ、また委員の方々にも感謝申し上げたいと思います。

皆さんからの要望の中でも、あそこに道路を作れ、ここに新しい道路を、というのが今でも実は大変多い訳であります。

しかし、まちづくりの中で限られた税金、更には働く人が減っている、税収が減っている、こんな時代に道路だけをしっかりとつくるということは逆行することになります。

やはり、公共交通対策をきちんとしていけば、自家用車に頼らなくても済むようになりますし、更には高齢者や障害者の方々が事故に遭わなくて済む、こういった公共交通のあり方というのを模索していくのが、これからは最も大事なことでもあります。

さらに、かつては歩道付きの道路を造るのが夢でありましたけども、今は離合ができるような、そのような一部を買収して、全部の道路を造るのではない、要所を買っていけばそれが道路としてできていく、このようなまちづくりの考え方も更に導入していかなければなりません。そしてこのようなコミュニティバス、または循環バスというものが利用する度にその利点、または悪い点というものを改善していくことによって市民の方々の利便性が高まる、またそのことで外に出て行こう、または生涯学習の普及にも繋がっていく。これがひとつは私が目指す健康都市合志、皆さん方が外に出て病気にならない、または元気になる趣味やスポーツを更に活かして健康増進に務めていく、このような繰り返しによって健康都市というものを造っていくのが最大のねらいでもあります。

先ほど会長の方からお話ありましたが、県内の各大学等と色々な包括協定を行い、相互に連携、協力する体制を整えているところですが、今回、本来の趣旨に沿って、もっともっとお互いの利便性を高めていく、また、このような振興や協議ができていく、そのような思いで本日は崇城大学の各学生の皆さん方が教授のご指導のもとに、このような提案がされたことに私も改めて感謝申し上げたいと思っております。

どうぞ本当に会場の皆様方に自分たちの手づくりで愛されるコミュニティバスに、更に利用が高まっていく、そのような願いを込めていいものが選んでいただけるように心からお願ひ申し上げます、私からのご挨拶に代えさせていただきます。本日はお忙しい中、誠に有難うございました。

中村課長：ありがとうございました。

ここで配布しております、資料の確認を事務局の方から行います。

坂井主幹：配布資料の確認

中村課長：次に本日の委員さん方の欠席、ならびに代理出席について説明致します。

お手元の配布資料、3 ページの出席者名簿の備考欄に本日の欠席ならびに代理出席については記録しておりますので、ご確認お願い致します。

それから本日は崇城大学より芸術学部長の漆原教授、それからデザイン学科の森野教授においでいただいておりますのでご紹介致します。

皆様方向かって右側になります芸術学部長の漆原教授でございます。

それから左側の方がデザイン学科の森野教授でございます。

お二人には後ほどご挨拶をしていただくところしております。宜しくお願い致します。

今回、コミュニティバスのラッピングデザインの製作にあたりましては崇城大学のデザイン学科の皆さんに大変お世話になりましたが、ここで今までの経緯について簡単に説明したいと思います。

先ほど、会長からも簡単に説明ありましたが、本市と崇城大学は人材派遣や施設の利用、それから各種活動への参加等、包括的な連携のもとに文化、スポーツ、国際交流、産業、地域づくりなどの分野で相互に協力することで地域社会の発展と人材育成に寄与することを目的としまして、平成 18 年の 7 月 10 日に本市と崇城大学との連携協力に関する協定というものを締結しております。

今回はこの連携協定に関する協定の主旨に則りまして、相互の人的知的資源を交流活用図ることで、より専門的な知識や技術を活用して、完成度の高い作品が得られるということを目的と致しまして、崇城大学芸術学部デザイン学科の森野教授にお世話いただきまして、多くのデザイン学科の皆さんに本市のコミュニティバス車体のラッピングデザインを制作していただいております。

本日は事務局の方で 10 作品に絞り込んでおりますので、デザインを制作された学生さんによるプレゼンテーションの後、本日ご出席の皆さん方に投票していただいて、コミュニティバス車体のラッピングデザインを決定する運びになっておりますので、どうぞ宜しくお願いしたいと思います。

それではプレゼンテーションに入る前に大変お忙しい中、本日おいいただきました崇城大学の漆原芸術学部長にご挨拶をお願いしたいと思います。

漆原芸術学部長：こんにちは。崇城大学の漆原と申します。

今回、我々にとってはチャンスをいただきまして本当に感謝しております。

学生たち、留学生も含め、約 30 人くらいですが、合志市をよく知らない学生が多くて、ま

ず何から始めたかという歴史と産業の調査を行ったわけです。

実は私も合志市民ですが、さっきルートを見ましたらうちの側を通らないみたいなのでちょっと残念です。合志市の広報紙を見るのですが、見るたびに人口が増えている、これはすごいことだなと、すごく誇りに感じているところです。

私もバスをどこかで利用しなければいけないと思っているのですが、そういう楽しみもひとつ増えたと思います。

今後、合志市の人口も毎年増えておりますので、益々合志市の発展に期待して挨拶に代えさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

中村課長：はい、ありがとうございました。

続きまして、審査における視点などについて同じく崇城大学芸術学部デザイン学科の森野教授にご説明をお願いしたいと思います。

森野教授：皆さんこんにちは。

審査基準というお話をする前に先ほど少しお話がありましたけども6月下旬にお話があったから学生にはとにかく合志市に行きなさいと。合志市に行って自分で見て、どんなバスが走れば合志市の方に使ってもらえるのかということを考えてもらいました。

時間的には1ヶ月弱という短い期間でしたけども、まず7月の下旬にバスの車体の色を決めました。それからその後、8月9日に審査員6名、この時は合志市の総務企画部の齋藤部長をはじめ、崇城大学からは漆原先生と私の計6名で10点に絞ったわけです。

それから色のことですが、2台が走るということは最初からわかっていたので、1色でもよかったのですが、せっかくなので2色でやることにした。

その時に基本的な考え方として、合志市が非常に住みやすいまちであると伺っていたので、住みやすさということをイメージできる色、つまり人々が元気に、しかも明るいイメージに、その辺を基本的な考え方にしています。

その基本的な考え方を基にオレンジとイエローグリーン、2色を選びました。

オレンジがキーワードとして合志市の人のエネルギーを表しています。つまり生活の中の生き生き感というのを全面に表現しました。

イエローグリーンというのが、農業、竹林、環境の中の生き生き感、両方とも生き生き感なんですけど、違う観点から生き生き感を色でしています。

ということで、この2つの色をベースにデザインをしてもらったわけですが、今回デザインの評価基準でもありますし、審査基準にもなるのですが、3点考えています。

ひとつはコンセプト。これは学生にいろいろ足を使って調べてもらったり、いろんな調査をしたことで考え方をしっかりと立ち上げているのかというその辺のコンセプトですね。

それからデザイン性、元々のコンセプトがはっきりとイメージされているか、表現されているか、その辺になってくると思います。

最後に景観調和性、合志市のまちを走るバスですから合志市の景観とどれくらい調和するか、その辺も審査基準になるのかと思います。

以上、審査基準と進行プロセスを簡単に説明しましたが、この後学生に各々のプレゼンをしてもらいます。宜しくお願い致します。

中村課長：はい、ありがとうございました。

尚、本日は皆様方に投票用紙をお配りしております。投票される時はバスの色ごとにオレンジとグリーンと 2 台ありますので、プレゼンテーションの後に投票していただきますが、投票に際しましてはバスの色ごとにオレンジとグリーンと 1 番良いデザインだったと思った作品の番号をそれぞれひとつずつ書いて、投票していただくということになりますので宜しくお願い致します。

投票についての詳細につきましては、プレゼンテーションの後に担当より説明致しますので宜しくお願い致します。

それではプレゼンテーションに入りたいと思います。

尚、プレゼンテーションの進行につきましては崇城大学の学生さんをお願いしたいと思います。宜しくお願い致します。

崇城大学 司会：みなさん、こんにちは。

只今から崇城大学による合志市コミュニティバス・ラッピングデザイン・プレゼンテーションを行います。つたないプレゼンテーションになるかもしれませんが、皆さん宜しくお願いします。

崇城大学 Aさん：みなさん、こんにちは。

私は中国から留学している A と申します。

私のテーマは「そよ風に乗りましょう」これは産物バージョンです。

これはバスの前と後ろのイメージです。オレンジのバージョンです。これは構成の手順です。このアイデアは 3 つのレイヤーを手順に沿ってバス車体の下から上まで重ねているところです。1 番目のレイヤーは海底、2 番目のレイヤーは雲、泡、3 番目のレイヤーはロゴを表現しています。これは海底のイメージです。この波一体はそよ風をイメージして表現しています。これを背景にして、みんなを迎える優しい風のイメージで表現しています。

これは雲です。雲がそよ風にのっているイメージです。

合志市の農産物は有名です。このロゴは果物、未知、鳥、すいかのキャラクターから構成しており豊作をイメージしています。以上です。

崇城大学 Bさん：2 番目のデザインをプレゼンさせていただく B と申します。宜しくお願いします。

このデザインのテーマは「さわやか合志を乗せるバス」です。合志市は熊本県の北部内陸部に位置します。北部地域は阿蘇の火山灰が降り積もった火山灰性腐植土に覆われた広大な農地が広がり、県内有数の穀倉地帯となっています。

合志市では写真のような風景をよく見かけます。広大な農地とどこまでも続く青い空、風は気持ちがよく農地を軽やかに駆け抜けます。

基幹産業が農業であり、熊本県における農業算出額が県内 1 位であることから、この地が元気な作物を多く作ることがわかります。近くに住む人、住む人、訪れる人、合志を通る人、みんなを清々しい気持ちにしてくれます。

そこで私はこの豊かな台地と青い空の広がる気持ちのよい風景が合志市の特徴のひとつだと考えました。このまちを走る合志市コミュニティバスは合志市を巡回し、市民の生活を助けることはもちろん、乗っていて気持ちのよいバスであると思います。

爽やかで清々しく、爽快な気持ちにしてくれる合志市の風景、そこで私は「さわやか合志を乗せるバス」というテーマでラッピングデザインを提案します。

合志市コミュニティバスはただ単に市民の移動手段になるだけでなく、乗った人を合志市の美しい景色によって爽やかで気持ちのよい気分にしてくれると考えます。そのバスと一緒に乗りませんかという意味合いも込めています。広い大地と青い空、大きな農作物、そして合志市の木であるくぬぎ、花であるかすみ草などをモチーフにしています。

グリーンのバスのデザインは白い大地を表しています。カントリーパークの建物と市の木であるくぬぎに実るどんぐり、市の花であるかすみ草、花の生産が盛んであることから花のイメージを使用しています。

オレンジのバスのデザインは大地と豊富な作物を表しています。米、すいか、花の生産が盛んであることから、これらのイメージとくぬぎ、かすみ草を使用し、背景には農地を配置しています。

バスの前面と後方です。全面には「KOSHI CITY COMMUNITY BUS」と明記し、後方にはバスの愛称を入れたいと考えております。このデザインは「さわやか合志を乗せるバス」をテーマに気持ちのよい合志市を一緒に回ろうというコンセプトを込めています。さわやかなイメージから乗車してくださる方が増えることを期待しています。以上になります。ありがとうございました。

崇城大学 C さん：こんにちは。私は「つなげて広がる合志の輪」というテーマをもとにデザインを作成しました。キーワードはかすみ草、心、輪です。

なぜこのコンセプトとキーワードにしたかという点、私はまちというものは人だけでなく、その人の心も乗せていると考えているからです。沢山の人の心に乗せ、バスが循環し、その中でひとつひとつの輪が少しずつ繋がって大きな輪になるという考えからこのコンセプト「つなげて広がる合志の輪」とかすみ草、心、輪というキーワードを基にデザインしました。

今映っているのがバスの側面図です。花が波のように繋がっているデザインにしました。花びらが小さくてわかりづらいかと思うのですが、心をイメージしてハートの形にしています。その花びらを回転させながら配置して合志市の花であるかすみ草をイメージして作りました。

循環バスは一年中走るものなので、季節が断定されるものは避けようと思い、抽象的なデザインにしました。バスに乗って見た風景やまち並みが、乗車した人の胸の中に繋がってほしいという気持ちを込めて花を連ねてデザインをしました。合志市の景観を損ねることがないように派手な色は使わず、輪郭の色は3色にし優しい色合いにしました。通行人や遠目から見てもわかるように文字を大きくし、上の方に配置しました。こちらは乗車する面なので、乗車する人が何のバスかすぐ確認できるように乗車する場所の右側に「合志市コミュニティバス」という文字を載せています。

正面から背面の図は元の場所に戻ってくる循環バスの意味と地域の輪、市民の輪、心の輪が広がるようにと気持ちを込め、円のデザインを使いました。

小さくて細い輪から大きくて太い輪に円を組み合わせて水面のように表現し、清潔感を出しました。側面と前後面を繋がりラインにしてごちゃごちゃした印象にならないように仕上げました。以上、Cのプレゼンを終わらせていただきます。ありがとうございました。

崇城大学 Dさん：みなさん、こんにちは。

これから崇城大学芸術学部デザイン学科 Dのプレゼンをさせていただきます。

今回、合志市のバスのデザインをすることで合志市についていろいろ調べたところ合志市の子ども憲章を見つけました。「いのち～私たちは平和と愛と命を大切にし、明るく健康な生活をします」「夢～私たちは夢や希望を持ち、未来と自立に向かって努力します」「あいさつ～私たちは爽やかなあいさつをし、感謝の心を大切にします」「友達～私たちは思いやりの心を持ち、ひとりひとりの人権を大切にし、友情の輪を広げます」という合志市子ども憲章の内容から合志市民の皆様が平和で明るく夢と希望を持ち、お互いを思いやる心をととても大切にされているのだと感じ、それを基にデザインしました。

まちには小さなお子様からお年寄りまで、いろいろな年齢層の方が生活しておられます。合志市の生活において密着性のあるバスというものを通して、地域の方々に笑顔になっていただきたいと思いました。

このデザインはまちの皆さんが明るく楽しい輪が作れるようにという思いを込めて丸の形を使い、様々な色を使ってひとりひとりの個性を表し、あえて色は縁に綺麗に収めないことで人間の温もりを表現しました。ひとりひとりの表情は、みんなが笑顔で、その中でさり気なくお年寄りが子どもを見守っている姿や、親が子どもを見守る姿をバス全体にデザインすることで、温かな地域の輪を表現しました。これは「未来に託す子どもたちを見守り、みんなで育てるまちをつくります」という風に合志市市民憲章にも定められています。

バスの表面どちらもみんな表情が違うので、その微妙な違いを見た人に楽しんでいただければいいなと思い、そしてこのひとつひとつの顔が何かキャラクターのようで小さなお子様にも印象づくのではないかと思います。

「合志市コミュニティバス」という文字も手書きのようにすることで人の温もりを表現しました。「合志市コミュニティバス」という文字の隣にある複数の線のようなデザインは、バスの中がワイワイと賑わっている姿を表現したものです。賑やかさを出してバスに気軽に乗れる雰囲気にさせることができればいいなと心を込めてデザインしました。

このバスが走る姿を見て、小さなお子様からお年寄りまで、まちじゅうの人の笑顔が自然とこぼれてまちが一層明るく、そして笑顔あふれるまちになればいいなと思います。以上です。

崇城大学 Aさん：これは花のバージョンです。

これはバスの前と後ろのデザインです。これは車体の下から上まで3つのレーザーを重ねています。1番目はこの背景部分です。2番目は雲をイメージしたレーザーです。3番目はロゴです。これはみんなを迎える優しい風のイメージを表現しています。合志市の有名な特産物は花です。このロゴはその花と生き生きとした線香花火を合わせてイメージしています。以上です。

崇城大学 Eさん：私のデザインのキャッチコピーは「人と人。つながるバス。」です。

私は今回、合志市のバスをデザインするにあたりコウシという文字に着目しました。合志は志しを合わせると書くことから、みんなで協力し合ってより良い市をつくっていこうという思いを込めてデザインしました。また合志市は2006年に合志町と西合志町が合併して誕生した市であるため、以前は異なるまちの人々だったけど今は同じ合志市民として一丸となって合志市を支えていこうという思いも込めました。

そしてこのバスが合志市のみんなを繋ぐバスにもなるように、人々が手を繋いでいるシルエットにしました。シルエットには大人から子どもまで幅広い世代の人々、それから犬も居ます。このシルエットを描くときにこだわった点は、大人の中に子どもを描いたことです。これは合志市が子育て支援日本一をめざす市であること、市民憲章に未来を託す子どもたちを見守り、みんなで育てるまちをつくりましますと定めてあることから、市の大人がみんなで子どもを育てていることを表現しました。

それから側面のシルエットの後方に居る人がバスの背面の方を向いているのは、背面に居る子どもたちとも繋がっているイメージを出したかったので描きました。

そしてこの「合志市コミュニティバス」という文字をバスの上の部分に持ってきたのは、近くに居る人だけでなく、遠くに居る人も見えやすいということと、下の部分に描いてしまうと人々のシルエットと重なり文字が読みづらくなってしまったので上の部分に入れました。

文字の色については、人々のシルエットの存在感が消えてしまわないように目立つ色ではなく、シルエットと同じ色を使用しました。

その次に人々のシルエットについて説明したいと思います。

私は手を繋いでいる人々のシルエットを描くと決めた際に、シルエットでは顔の表情がわからないため色で人の優しさや思いやりが伝わるような温かみを出したいと思いました。そのためにグリーンのバス、オレンジのバス、両方のバスに共通して言えるのは温かみのある色を選んだことです。そして人のシルエットを緑と赤にしたのはもうひとつ理由があります。その理由とは合志市の基本理念である「人と自然を大事にした協働によるまちづくり」からきています。緑を選んだ理由は、合志市は自然が豊かでその豊かな自然を大切にしているためです。

そして赤は合志市の人々がみんな協力し合って合志市をつくっている情熱や熱意を表現したかったからです。

最後に私はこのバスが合志市を走ることによってキャッチコピーの通りに人と人がつながってもらえたらいいなと思っています。

これでEのプレゼンを終了させていただきます。

崇城大学 Fさん：みなさんこんにちは。

これから崇城大学2年芸術学部デザイン学科、Fのプレゼンを始めさせていただきます。宜しくお願いします。

まず始めに、合志市コミュニティバスをデザインするにあたって合志市のことをいろいろ調べました。調べていく中で得た情報をいろいろ挙げてみました。

まず合志市はとても栄養を含んだ農地に恵まれ、農作物が育ちやすい環境であることと、畜産が盛んであることがわかりました。

また合志市には特産物も沢山あり、より一層惹かれる市だと感じました。

数ある合志市の魅力の中でも自分が一番着目したのが、合志市は熊本市に隣接していることでベッドタウンとして人気があること、また住みやすい市であることにより、近年人口が増加しているということです。この人口の増加と共に今以上に賑やかな市となり、来訪者も増加していくと考えられます。その中を今回企画しようとしているこのコミュニティバスが走る場合、様々な市民の方に受け入れやすく、馴染みやすいものを目指す必要があると考えました。そして今回、私がバスのデザインをする中で一番に目指したことが、いかに様々な世代の市民の方々に親しみやすく、市内の景観に馴染むかということです。プレゼンさせていただくバスのキャッチコピーは「いつもの合志、いつものバス。」です。

市民の方々の側をいつも変わらず走り続けている。そして市民の方々に親しみやすく身近な存在である、そんな意味を込めてこのキャッチコピーをつけました。

次にバスのデザインのイメージについて説明させていただきたいと思います。

今回、バスのデザインの中で用いたものは、合志市の市の花のかすみ草、そして竹です。

かすみ草は花言葉で清い心、親切などの意味を持つそうです。私はかすみ草自体の印象や花言葉の意味から純真で繊細なイメージを受けたのでこのイラストを用いました。純真というイメージから色はあまり派手なものは使用せず、白を基調として変化させていきました。透明度を下げることにより、ぼかしのかかったかすみ草も作り配置しました。

また、かすみ草には白以外にピンク色の種類も存在するので、かわいいピンク色を使用したかすみ草も配置してみました。かすみ草の花自体がとても小さいこと、また市の花がかすみ草であることを知らない市民の方々もいるのではないかと考えたので、あえて大きなイメージのかすみ草を主に使用しました。多くの方々に市の花を知ってもらえたらと考えています。

同時にバスの側面に使用したイメージが竹です。竹は市内に竹植物園という施設があると知り、とても魅了的な部分だと感じたので使用してみました。

市の花という指定には特にされていないのですが、竹もかすみ草と同様に市民の方にとって馴染みやすいものになればと思い配置してみました。

続いて、バスの前面部分についてです。前面部分はあまりうるさくならないようにかすみ草のみを配置しました。側面部分とは異なり同じ大きさのかすみ草を連続して配置することにより、スッキリと見えるような全面部分をつくりました。逆に後方部分は大きいかすみ草を色違いで配置しました。信号待ちなどの際に後ろに止まる車に向けて何か印象に残ればと思い、あえて大きなかすみ草のイメージを使用しました。こちらも前面と同様にあまりうるさくならないよう、淡い色調を使ったかすみ草のみを配置しています。

以上が私のバスのデザインの内容になります。市民の方々に親しまれ、癒しになるようなバスを目指しています。以上でFのプレゼンを終了させていただきます。ありがとうございました。

崇城大学 Bさん：こんにちは、8番のプレゼンテーションをさせていただくBと申します。よろしくお願いします。

このバスのテーマは「緑の合志、いい暮らし。」です。

人、自然、暮らしやすさをキーワードに住みやすく、人々が明るく暮らす合志をイメージしました。緑の合志とは気持ちのよい合志の自然、いい暮らしとは安心で利便性が高く、快適なまちであることを表しています。合志市は人々が健やかに安心して住み続けられる要素を数多く持ち、人口減少の時代を迎えながらも尚、人の増加が見込まれている県内でも有数の元気の良いまちです。過去3年間の人口の増減比率、世帯数の増減比率は右肩上がりであり両方とも年々増加していることが合志市の住みやすさを証明しています。

自然が豊かで文化施設も充実し、子どもからお年寄りまで住みやすいまちです。

赤ちゃんを抱いたお母さん、散歩をするおじいさん、人が集い活気のあるまち、市の木であるくぬぎは夏には憩いの場を与え、秋には子どもに遊びを与え、冬は焚き火をし、周囲に温もりを与えます。志を合わせる協働によるまちづくりと掲げておられることから、市

の木であるくぬぎの元で人が笑顔で暮らす様子をイメージしました。

グリーンバスは木陰で憩いの場を与えるくぬぎの木、人々にやすらぎをもたらすかすみ草もついてきています。

かすみ草の花言葉は深い思いやり、清らかな心、恋、英語でベビーズブレス、赤ちゃんの吐息であることからこの絵に適していると判断しました。

オレンジバスは子どもに遊びを与え、市民に温もりを与えるくぬぎの木、その元で人が暮らしやすく活気のある様子を表現しています。前方と後方は緑をベースに自然豊かな風景、これにはどんぐりを配置し、景観に馴染むようにしました。

自然が豊かなまち、活気があるまち、人が住みよいまち、そういったイメージのバスが合志市を走ることでバスに乗る人、バスを見かけた人が嬉しくなるようなバスを意図しました。以上になります、ありがとうございました。

崇城大学 G さん：みなさんこんにちは。今から崇城大学芸術学部デザイン学科 2 年、G のプレゼンをさせていただきます。

みなさんは合志市の花を知っていますか？

答えはかすみ草です。

私はこのラッピングバスデザインを考えるにあたって、初めてそのことを知りました。合志市で生活されている方にも意外と知られていないことかもしれません。

かすみ草の花言葉は深い思いやり、清らかな心、そして英語でベビーズブレスといいます。その響きにも合うように合志市では子育て支援日本一のまちづくりとして地域全体で様々な子育てのサポートを行っています。

最近、子どもたちの尊い命が犠牲となる悲しいニュースが驚くほど多く報道されています。地域のサポートはそれらを未然に防ぎ、子どもたちの清らかな未来を守る大きな石杖となるでしょう。これから益々この受容性が高まってくると私は考えました。

かすみ草と子どもたちの清らかな未来、この二つに注目しデザインに取り組みました。

かすみ草を使ってこのようなモチーフを考えました。かすみ草だけでは少し寂しく、物足りなさを感じたので、かすみ草の白にもバスのベースの色となる黄緑、オレンジにも合うように薄いピンクの水玉を加えました。

可愛らしく、けれども幅広い年代の方が利用しやすいように子どもっぽくなりすぎないようにも気をつけています。

また柔らかい色使いで子どもたちの未来を守る優しさや清らかさを表現し、合志市の風景に合うようにも気をつけました。

こちらがバスの側面の全体図となります。バスが走るときに動きが出て、花たちが流れているように見えるよう、花ひとつひとつの大きさの違い、リズム感の出る配置にこだわりました。かすみ草の花たちがふわふわと踊るように流れながら合志市を 1 周しているイメージです。このことから合志をまわるかすみ草というキャッチコピーを考えました。

正面、後ろから見たときにも可愛らしく優しい印象になるようなデザインになっています。こちらが緑のバージョンです。そしてこちらがオレンジのバージョンです。

「合志市コミュニティバス」の文字は最初、英語のほうが見栄えがすると考えていました。けれどバスを利用する子どもたちやお年寄りにも親しんでもらえるように、一番目に付く側面は日本語表記としました。また「バス」の「バ」の濁点をかすみ草の花にする遊び心を加え、花のデザインとの関連性を持たせました。

デザインの邪魔をしないようシンプルにまとめたかったので、文字の色はバスの色と同系色にし、サイズがあまり大きくなりすぎないようにしました。

前面は文字を置くとゴチャゴチャしてしまうと思ったので、あえて置かずに花だけにしています。このバスが合志のまちを走ること子どもたちを始めとした地域の方々の心が癒され、生活がより明るく色鮮やかになることを願っています。

以上でGのプレゼンを終了させていただきます。ありがとうございました。

崇城大学大学院 Hさん：こんにちは、崇城大学大学院のHです。今からプレゼンを始めさせていただきます。

私がデザインしたバスのキャッチフレーズは「BUS LETTER」です。

バスレターとはバスから合志市に宛てたラブレターというコンセプトから付けました。

なぜこのコンセプトにしたのかということの説明する前に、まずはバスをデザインするにあたって私が進めたプロセスについてご紹介します。

バスをデザインするにあたって、まず私が始めた事は合志市について知ることでした。

合志市とはどんなところだろう？そこで実際に合志市の市役所やヴィーブルを訪ねてみたり、合志市のまちを車で何度も走って見たりしました。

そんな中、合志市役所にて合志市地域公共交通計画という冊子を拝見することができました。この冊子は合志市の交通面での様々な課題や問題点などの調査結果を基に、合志市のこれからの交通計画について書かれたものでした。

この調査結果からバスをデザインする上で念頭に置くべき私が考える合志市の課題は4つありました。

一つはバス利用者の検証、二つ目はCO2の排出による環境問題、三つ目はラッシュ時の交通渋滞、四つ目は高齢者の利用に合ったまちづくり。

合志市は熊本市のベッドタウンとして人口増加傾向にあります。市民のマイカーの依存度が非常に高く、それが原因で発生するCO2排出による環境問題や通勤ラッシュ時の渋滞などの問題を抱えていることがわかりました。

この分析から合志市のバス利用者の減少は、合志市の交通環境を改善する上での大きな課題があると思いました。またバス利用率の高いお年寄りの方々に配慮したサービスの充実も重要であるということがわかりました。

そのひとつとして親しみのあるデザインを考えることがバス利用者を増やす大きな結果となりうると考えました。

合志市について調査し、次に私が考えたのはそもそもバスの役割って一体どんなものだろうかということです。

沢山の人を乗せて、沢山の道を走って、毎日毎日同じように沢山の人を乗せながら合志市のまちを走り続けているバス。そんなバスから連想したキーワードが「繋ぐ」というものでした。

人と人を繋ぎ、人とまちを繋ぎ、心と心を繋ぐもの、バスは合志の人たちの出逢いの場であり、人と人との関わりを育てる存在として合志の人たちの心を繋ぐ大切なものであると私は考えました。心と心を繋ぐ、そんな素敵な役割を持つバス。

しかし、バスがこの役割を果たせるのはやはり沢山の利用者が乗ってあげてこそです。そこでもっともっと合志の人たちが乗りたいなと思えるようなデザインをする。それがバスのデザインを考える上で私が一番心に残るポイントとなりました。

バスと人との距離をもっと近くへ。バスと合志市の人たちとの心の距離をもっともっと近づける。バスのデザインをすること、それは人とバスとのコミュニケーションを作り出すこと。合志の人たちの心に何かしらのメッセージを届けられるデザインにする。バスのデザインをすること、それは人と人とのコミュニケーションを作り出すこと、人とバスとのコミュニケーションを作り出すことだと考えました。

そこで、合志の人にメッセージを届けられるバスにしたい、そんな発想からバスの気持ち、つまりバスからのメッセージをのせたバスというデザインにすることに決めました。

まずはバス停でバスを待っていた人へのメッセージです。「また逢えてたいぎやうれしかですたい」「お待たせしました。さあ、どうぞ。」夏は暑い中、冬は寒い中、バス停でバスを待ってくれる人たちを思いやるメッセージを載せました。

次はバスに乗る人やバスを見かけた人へのメッセージです。「おかえりなさい。」「よう来られました さあさあ、一休みしなっせ」「さしより乗っていきなはらんですか?」「あなたの笑顔、あの町のあの人へ届けるばい」「最近、どぎゃんですか?」「お互い、がまだしましょうね」

次はバスを降りた人へのメッセージです。「ありがとうございました」「また逢える日を楽しみにしとります」

またバスのメッセージを受け取るのはバスを待っている人だけではなく、バスの横を走るドライバーへのメッセージも必要だと思いました。「どっか行きよとですか?」「お互い安全運転ば心がけましょうね」「アイドルングストップで愛取り ing しとります」「エコドライブに気をつけて安全運転ばしましょうね」そんなメッセージが込められています。最後のメッセージはバス自身の目標や想いに関するメッセージです。「つなげたかです。合志のココロとココロ。」「志が合わさったまち、この合志で走れることが私たちの誇りですたい」「こうしッ、たのしッ、うれしッ」「好きばい、合志」これがバスの右側と左側のデ

ザインになっています。

先ほど紹介したバス停に待っている人が見る側にはバス停で待ってる人へのメッセージを、ドライバーに向けたメッセージはドライバーが通る側にメッセージを載せています。前面と背面のデザインです。前面はバス停で待っている人が1番先に目にするもの。「あなたに逢えてうれしかですばい」というようなメッセージや背面のメッセージにはバスを降りた人が1番最後に振り返ったときに「ありがとうございました」という文字が見えるようにしました。

最後にバスターからの願いをご紹介します。全部イラストのない、文字だけのデザインですが、最初は何だか変わったバスだなでいいんです。何だか気になるバスだなと思いながら、そんな中バスに乗るたびに、バスを見かけるたびに少しずつ、少しずつ、合志市の皆さんの1番身近な存在になったらそんな願いを込めてデザインしました。気になる存在の片想いから愛しい存在の両想いへ。

以上で私のプレゼンを終わります。ありがとうございました。

中村課長：はい、10作品のプレゼンが終わりました。いかがでしたでしょうか？

これからひとつひとつの質疑に移りたいと思っておりましたが、プレゼンテーションを聞かれて、十分学生さんたちの想いは伝わったと思いますので、質疑等は省略させていただきます。早速投票のほうに入りたいと思います。

投票に関する説明を事務局から行います。

坂井主幹：お手元に投票用紙があると思います。読んでいただきますと、今までの1番から10番の作品の中で1番の作品をオレンジとグリーンそれぞれひとつずつ番号を書いてください。

下にも書いておりますが、それぞれ違う作品の番号を書いてもかまいませんし、オレンジとグリーン同じ作品でもかまいません。そちらを記入されて前に投票箱がありますので、そちらの方にお入れ下さい。

もうしばらく、そちらの前にあるパネルのほうにも用意しておりますので、もう一度ご覧いただいて、ご検討をお願いしたいと思います。以上です。

中村課長：はい、宜しいでしょうか？

オレンジとグリーン、1番良かったと思われる作品の番号を書いて、前の投票箱に入れていただきたいと思います。今から10分間ほど時間をとらせていただきたいと思いますが宜しくお願いします。

投票（10分間）

中村課長：みなさん、終わられましたでしょうか？ 宜しいですか？

それでは事務局のほうで集計に入ります。

各自皆さんから今日のプレゼンテーションのやり方とかその他ご感想など何かありますか？ ご感想があればお願い致します。

田端さん：今日は大変良い企画だったと思います。

若い学生さんたちの新鮮なプレゼンを聞いて、本当素晴らしいなと思いました。これがまちづくりにもお願いできたらなとチラッと思いましたけど、すごく良い企画だったと思います。みんな素晴らしくてちょっと迷いました。以上です。

中村課長：ありがとうございました。

今日は議員の方も参加されておりますが、どなたかおられましたら。

丸内議員：私たちは議員ですが、崇城大学の生徒さんは私たち以上に合志市をよく熟知されていて、逆に「なるほどこんなこともあるな」と教えられた一面でもありました。こんな形で選ぶということは市民の方にも大いに利用いただけると思います。ありがとうございます。

熊本大学 学生さん：実際、私も合志市のバスに乗り込みいろいろ調査をさせていただいた末、お世話になっているのですが、絵に関してはあまり知識がないもので、いろいろプレゼンテーションを見させていただいたのですが、これとは言わないですが、ひとつだけ両サイドと考えてデザインされていたのがあって私はそれにしました。乗られる人が1番いい、また見られる人も1番いいということで表面からデザインの設定でそれが1番いいなと思って選びました。ありがとうございました。

中村課長：ありがとうございました。それでは協議会の委員さんの中で何かご意見、ご感想などございましたら一言ずつお願いします。

草野委員：あの市長さん、10台ばかり買ってもらえると…この中から2作品となるととても責任感しました。本当に素晴らしい作品ばかりでした。

吉永さん：委員をしております吉永と申します。

学生さんたちが短期間の間によくこうやって調べられて、他の授業の合間にこちらのデザインをするというのは大変だったと思います。

ただ若干、学年の差がでたかなという気もしております。プレゼンの仕方にしても1年1年の積み重ねというのをまともに見させていただいたかなと思います。

私、天草市の循環バスを見に行きました。そこは地元出身の画家のデザインで誰が見てもびっくりするぐらいインパクトのあるバスを利用されています。今は学生さんですから、いつかはそういうものを作っていただけるような絵を描いていただくと本当にいいのかなと思います。今回のこの企画はとても良かったと思っています。

松村委員：熊本電鉄でございます。実はバスを走らせる身ですので、デザインよりも安全に第一ということで考えました。

非常にデザインとしては迷いました。ついつい事業者ということでシンプルなほうがいいんじゃないか、もしも当たったときとか何かあったときに修理しやすいほうがいいんじゃないかとかいろいろ考えまして私なりに投票させていただきました。ありがとうございました。

中村課長：それでは大変お待たせしました。結果が出ましたので、事務局の方から発表させていただきます。

北里班長：はい、発表いたします。

投票総数は 61 票でございました。オレンジが 18 票獲得の 10 番、グリーン、こちらも 16 票獲得の 10 番ということでございます。

中村課長：はい、発表通りコミュニティバスのラッピングデザインにつきましては、両方とも 10 番のデザインで行うということになりました。

後で学生の皆さんに御礼を言いたいと思います。

それでは以上をもちましてコミュニティバス車体ラッピングデザイン審査を終わりたいと思います。

一般参加のみなさんにおかれましてはお忙しい中、ご参加いただきましてありがとうございました。改めて御礼を申し上げます。

これから次第の 5 番、公共交通協議会の議題に移ります。一般参加の方で議題を傍聴される方はそのままおられて結構です。

ラッピングデザイン審査を目的においでいただいた方で、協議会の傍聴を希望されない方は解散されて結構ですので、宜しく願いしたいと思います。

尚、市長は次の予定がありますので退席致します。ご了承のほど宜しくお願い致します。

それでは議題に入りたいと思います。議題の進行につきましては本協議会設置要項の規定に基づきまして、齋藤会長のほうにお願い致します。

齋藤会長：はい、それでは早速 5 番の議題に入らせていただきたいと思います。

5 番の (1)、コミュニティバス車体ラッピングデザインの決定についてということで只今投

票の結果が発表されました。お手元のラッピングデザイン案の 10 番ということで結果が発表されましたが、ラッピングのデザインにつきましては、投票通り 10 番ということで決定させていただいて宜しいですか？

はい、それでは議題（1）につきましてはデザイン 10 番に決定させていただきます。

はい、どうぞ。

吉永委員：10 番で何も問題ないのですが、この中身はまったくコミュニティバスという文字のデザインがないですよね。それを入れられないままこのままいかれるのか、愛称か何かつけて入れられるのか、その辺を確認したいのですが。

齋藤会長：はい、それでは事務局のほうからその点についてお答えいたします。

坂井主幹：はい、その点に関しまして資料 3 番に掲載しておりますが、今後の活動予定というところで 7 番、10 月運行開始後のコミュニティバス愛称募集、10 月から 11 月の間に募集を行います。12 月に決定を行うということで予定しております、決定した愛称のロゴをデザイン学科の生徒さんにデザインしていただいて、それを別途ラッピングするという考えております。以上です。

齋藤会長：それでいうと合志市コミュニティバスという名称は入れないということですかね？愛称だけで。

坂井主幹：はい。

齋藤会長：そのところは皆さんどうですか？バスが走っていて何のバスだというのがわかるように「合志市コミュニティバス」という形で名称を入れたほうがいいんじゃないかという意見だと思うのですが。

吉永委員：元々コミュニティバスということでこの話をして、補助金も入っておりますよね。ここにまったく無記名でいいのか、ロゴだけでいいのか、ロゴなし、愛称なし、名称なしで補助金も入ってそれでいいのかという疑問ですよ。

齋藤会長：はい、それについてはデザインの校正がきくそうですので文字を入れることでどんなですかね？やっぱりわかるように入れたほうがいいでしょう？

複数の委員：それは補助金をもらってからそれを入れないというわけにはいかないでしょう。

齋藤会長：はい、ではそういう形でバスの名称を「合志市コミュニティバス」という形でどこかに入れたいと思います。また愛称は愛称でそれを表示するというので。

では1番につきましてはそういうことでデザインは決定させていただきます。宜しいですか？はい。

では続きまして議題の2番です。

コミュニティバス、乗合タクシー運行ダイヤの承認についてということで、ダイヤの案が出ておりますので事務局から説明させていただきます。

坂井主幹：はい、説明致します。

まず資料の2-1、コミュニティバスの環状系のルート案を載せてます。その次に載せております運行ダイヤですね。まず右回り、左回り、A3サイズでこちらの方を予定しています。特徴としましては前回の協議会でも説明しましたように、光の森駅への課外受講の高校生や通勤の方たちを対象としたバスを1便にそれぞれ予定しています。

右回りについてはたぶん辻久保から出るんですが、当初は黒石市民センター前から出る予定にしていたんですが、前回の協議会での協議事項を踏まえ、御代志のほうで一度止まり、それから黒石市民センターでということでダイヤを予定しております。

環状系のバスでは、ゆめタウン光の森が21番、22番が光の森駅になりますが、左右回り5便6便は光の森へは経由しないようになっています。8便については、光の森から御代志まで仕事帰りや学校帰りの方たちが利用していただくようにということで運行します。

環状バスについて御質問があればお願いします。

吉永委員：毎日運行するんですか？

坂井主幹：毎日運行します。追加説明いたしますが、みどり館やユーパレスなどの施設は休館日には入口が閉まるので、みどり館については入っていけないし、ユーパレスについては通過をするという対応で運行したいと思います。

環状系についてご質問があればお願い致します。

中村課長：宜しいでしょうか？それでは誠に申し訳ありません。

崇城大学の学生さんが揃われたようですので、ちょっと中断させていただきまして御礼を申し上げます。

協議会を代表しまして会長より御礼申し上げます。

齋藤会長：それでは一言御礼を申し上げたいと思います。

本当に素晴らしいデザイン、それから素晴らしいプレゼンをしていただきましてありがとうございます。本当に先ほど会場の皆さんからも出ましたように甲乙つけがたいと、

ある方はバスを10台買って、10作品のデザインを入れて欲しいという方もいらっしゃいました。本当にこういう形でご協力いただきまして心から御礼を申し上げたいと思います。まだ2年生、それから大学院の方もいらっしゃいますが、これから益々勉強に励まれて皆さんが飛躍されることを心から御祈念いたしましてお礼の言葉とさせていただきます。本当にありがとうございました。

会場より拍手

齋藤会長：はい、中断致しましたが、続けて説明のほうお願いしたいと思います。

坂井主幹：続きまして資料の2-2、循環系のAコースをお開き下さい。

菊池市泗水町の方から出まして、合生地区、野々島地区、ユーパレスの前を通りまして、ハローデイを通して再春荘病院までのコースになります。

時刻表につきましては次のページになりますが、1便、2便、3便、4便、5便、2往復半を予定しております。

1便につきましては再春荘から出ずに、本村毘沙門口から出まして孔子公園まで、目的としましては野々島、合生地区にお住まいの方が泗水まで買い物や通院のためにご利用できるようにというためです。

2便については野々島、合生地区にお住まいの方をユーパレス弁天、再春荘病院まで送ります。3便については1便に乗り遅れたとか、野々島、合生地区の住民の方を泗水まで送るという目的です。4便については1便でお送りしたお客様を孔子公園から合志市まで、5便については帰りの最終便ということで予定しております。

何かご質問ございますか？

吉永委員：ここに書いてあるのは全部バス停ですよ。

坂井主幹：そうです。

ご質問：辻は抜けてないですか？

坂井主幹：辻区は毎日回る環状線の…。

吉永委員：環状線になってこっちが抜けるわけですか？

坂井主幹：はい、ルート上と違うルートを通るということで、毎日通ってるので利便性は今よりも向上すると思います。

環状とダブるところは省いているような循環のコースになります。

吉永委員：毘沙門口は両方とも回るわけですね。

坂井主幹：そうです。

坂井主幹：他にございませんか？無ければ次の説明に移ります。

資料 2-3 になります。オレンジ色のコースですが、今説明したように黒松公民館前から出まして菊香園、を通過して、西合志庁舎の裏側、若原、大池地区の方を回って、ユーパレス、ハローデイ、再春荘というルートになっています。

時刻表につきましては 4 便を予定しております、1 便、2 便で送るだけの便を設定しております。ユーパレスや老人憩の家が 10 時くらいに開きますので、そちらに送るための 1 便。その後、もう一度時間帯を変えて 1 便。基本的には行った帰りを出すのですが、帰りはあまり乗られないということで、送るほうだけを午前中に設定しております。

帰りの 3 便については、1 便の再春荘やユーパレスの利用者の方を送り、4 便については最終便ということで予定しております。

すみません、各コースの運行曜日を上の方に書いておりますが、B コースは火・金・日曜日、週 3 日ですね。先ほどの A コースにつきましても週に 3 日ですが、月・木・日曜日と予定しております。今までは週に 2 日だったのですが、週 3 日ということで予定しております。

ご質問等ございますか？

無いようであれば、続きまして C コースになりますが、資料 2-4 になります。

こちらは高速のところの一方通行があるので、() のコースが少し違ってきます。

まず時刻表について説明致します。運行曜日は月・水・土曜です。須屋支所や再春荘病院の通院の方の支援を目的に設定しております。こちらは 2 往復設定しております、1 便が再春荘病院に 10 時頃に着くようにしております。2 便については 1 便に乗って西合志庁舎を利用された方が帰るために利用してもらおうと、間が 30 分くらいしかなく、ちょっと時間が早いのですが、設定しております。

それからもう一つ、12 番の須屋小屋から 21 番の囲碁センター前まで、こちらの方が 1 便で須屋支所まで行けませんので、この方たちを須屋支所まで送るという目的もあります。

すみません、上の段の始発時間②は始発時間③の間違いですが、3 便目につきましてはユーパレスや西合志庁舎、再春荘病院に行っていただくというところで設定しております。

4 便目につきましては帰りの最終便ということになります。

時刻表については以上ですが、何かご質問ございませんか？

特に無ければ次の D コースに進みたいと思います。

資料 2-5、D コース、こちらは日向地区、市の東部から西部のユーパレスまで、運行曜

日につきましては火・木・土曜日の 3 日間になってまして、日向地区の方で主に利用される憩の家や永江団地への買い物支援ということで設定しています。

1 便については今言いました日向地区の方を老人憩の家へ送るという目的です。

2 便につきましては、群・永江地区の方を合志庁舎ヴィーブルへお送りする目的となります。

3 便につきましては、行きの帰り便ということにしております。

4 便につきましては、帰りの最終便ということになります。

何かご質問等、ございませんか？

駆け足ですみません、続きまして E コース資料 2-6 です。

こちらは泗水から出て、上庄地区、合志庁舎を通過、すずかけ、永江地区を通るようなルートになっています。

こちらにつきましては運行曜日が水・金曜日、バスのやりくりでどうしても週に 2 日しかとれませんでしたので、便数を 6 便で対応したいと思っております。

6 便につきましても、途中から出て途中で止まるような便ですが、1 便につきましては竹迫地区や上庄地区の住民の方を、泗水の病院や商業施設へ送っていく目的となります。2 便の帰りにつきましては、同じ地区の方を永江地区の商業施設へ送るということです。3 便につきましては永江、泉ヶ丘地区の方を 1 便で対応できなかったもので、3 便で対応するという考えています。4 便については 1 便で行かれた上庄、竹迫地区の方々をおかえしするという考え方です。5 便につきましては 3 便の乗客をおかえしするという考え方です。6 便は帰りの最終便ということになります。

E コースの説明は以上です。何かご質問等はございますか？

草野委員：バス停に何らかの標識は出される予定ですか？

坂井主幹：バス停の時刻表の表示ですね？

草野委員：はい。

坂井主幹：表示につきましては既設のバス停がありますので、その電鉄の路線バスの時刻表がありますが、その下あたりに新たなスペースを設けて環状バスや循環バスの時刻表を掲示します。

草野委員：ありがとうございます。

坂井主幹：他に何かありませんか？

草野委員：資料の中のバス停のしるしが色分けしてあるのは何の区別ですか？

坂井主幹：これは赤と水色が今度新しく設置されるバス停で、黄色が前からあった既存のバス停になります。宜しいですか？

宜しければバスについては以上になります。

次に資料2-7、乗り合いタクシーの説明に入りたいと思います。

前回の協議会でご承認いただきましたように、合生地区、野々島地区、須屋地区が対象ということで、まず1番上の合生地区なんですが、対象区が黒松、生坪、弘生、江良、立割、小合志、高木、こちらの住民の方々を庄嶋医院、宮川医院、環状のバス停になります。栄温泉団地、こちらの目的地3つにお送りするというで運行致します。

行きの便につきましては病院の開院時間、昼休みの時間等を伺ってこの時間を設定しております。帰りの時間につきましても大体このくらいの時間だったら1時間くらいで終わるだろうとそういったところで少し余裕を持って帰りの設定をしています。

こちらについては病院まで行くのが目的なんですが、栄温泉団地のバス停、银杏タクシーさんの前に設置しますが、そちらまで乗り合いタクシーで来ていただいて環状バスに乗っていただくというご利用の仕方も実験的に行いたいと思っております。

次、野々島地区になりますが、こちらは熊本市植木地区への病院、買い物目的の運行となりまして、対象区が資料に書いてある地区になります。目的につきましては、植木郵便局、植木総合支所、熊本市立植木病院、こちらの3箇所を予定しております。

こちらにつきましても病院の開院時間等を伺いまして、時間を設定しております。

次に須屋地区になります。こちらは2つから出ておりまして、まず高速道路の北側の須屋地区、新開地区になりますが、目的地は環状バスの結節点があるみずき台のバス停を予定してまして、すみません、循環バスへの結節運行と書いていますが、環状バスへの結節運行を目指してということになります。

こちらの出発時刻ですが、環状に結節するというで環状のどの便を選んで出すかと、そのバスがどういった目的で動くのかということを考えて、まずバスの時間帯を設定して、それに合わせてタクシーの時刻を設定しております。こちらの時刻につきましては環状バスの右回り、左回りのみずき台の時刻を確認していただきたいと思っております。

それぞれの目的について簡単に説明致しますと、みずき台行きの第1便は環状左回りの第3便を予定しております。これが合志庁舎へ行く便に接続するということになります。次の第2便は環状右回りの第3便を予定してまして、ハローデイやユーパレス、西合志庁舎を利用されるお客様を乗せるようにしています。

第3便につきましてはこちらも合志庁舎を予定しております。

第4便につきましては第2便と同じ、ハローデイ、ユーパレス、西合志庁舎ということになります。

帰りの1便については9:19発の左回りで行かれた方が、右回りの第5便で帰ってこら

れるというところで 11:40 を出発時刻に考えています。

帰りの 2 便につきましては、1・2 便の利用者を予定しておりまして、この時刻につきましては両回りの第 5 便の時間帯と同じくらいの時間帯なので右回りの到着後に出発するよう設定しています。

3 便につきましては、3・4 便の利用者を対象として 6 便を選んでおります。

4 便につきましては全ての利用者の方を対象とした帰りの便しております。

ちょっと分かりづらいかと思うのですが、こちらで研究した結果、こういった設定になっております。

続きまして、高速道路の南側の地区です。こちらにつきましてはハローデイが結節点になります。

こちらにつきましてもいろんな目的があるのですが、第 1 便については環状左回りの第 3 便、9:13 発になります。第 2 便については右回りのユーパレスや西合志の方を考えております。第 3 便については第 1 便と同じで、第 4 便は第 2 便と同じユーパレスや西合志庁舎の方を考えております。

帰りの便の第 1 便については行きの 1 便でハローデイへ行かれて買い物をされて帰られる方もいらっしゃると思うので、そういった方のために予定しております。第 2 便は 1 便の利用者の、3 便については 2 便の利用者の、4 便につきましては 3 便の利用者の方の送りという意味で予定しております。

今までの乗り合いタクシーというのは目的地へ行って帰ってくるだけだったのですが、今度は環状への結節ということで、バスの目的に応じたタクシーの設定ということになりましたので、私たちのほうでこういった設定をさせていただきました。

長くなりましたが、議題の 2 番についての事務局からの説明は以上です。

齋藤会長：はい、説明が終わりましたので、議題の 2 番について何かご質問等があれば伺いたいと思います。

草野委員：タクシーは原則として予約ですか？

坂井主幹：はい、タクシーについては電話を入れていただいて予約していただくということになります。

草野委員：予約が原則ですね。

坂井主幹：予約をしないと乗れません。

草野委員：はい。

齋藤会長：他にございませんか？

では2番につきましては、今の運行ダイヤで承認いただけますか？宜しいですか？

はい、では2番のコミュニティバス、乗り合いタクシーの運行については今説明した案で承認いただきましたのでそれで決定したいと思います。

続きまして、議題の3番の啓発活動について事務局から説明致します。

坂井主幹：資料の3番、啓発活動について説明致します。

今まで行ってきた活動と今後の予定というのを記しています。今まで行ってきた活動は先ほど6月17日の合志市老人クラブ西合志支部総会について説明しました。それから7月26日は中央地区の民生委員さんの集まり、8月4日はすずかけ台区の老人会の集まりがありましたので、そちらの方で説明会を行いました。

8月16日はバスのほうではないのですが、熊本電鉄さんで新須屋駅のパーク&ライトの啓発用上り旗の設置を行いました。併せてご報告致します。

今後の活動の予定ですが、それぞれ説明致しますと、1番については各区を対象とした事業説明及び出前口座による説明会を8月27日に区の嘱託員さんをお願いします。

2番については各地区いきいきサロンへの出前講座の実施。

3番につきましては、先ほど言いましたが、老人会などの各種団体への説明会。

4番は今言いました各団体への説明会を実施した時に説明だけに留まらず、実際に乗車していただくところまで出来ればと思いますので、もし団体からご依頼があれば市の職員が添乗して体験乗車してもらうことも考えています。

5番については9月の中旬に2日ほど、実際に来られるJR利用客の方に対して周知のチラシを配布すると。合志の方か確認した後にチラシを配布してコミュニティバスのPRにつとめるということです。

6番につきましては10月1日から7日間ほど無料体験乗車のキャンペーンを実施したいと、こちらについてはコミュニティバスと乗り合いタクシーを考えております。

7番につきましては先ほど説明しました愛称の募集ということで皆さんに親しまれるような愛称の募集を考えております。

8番につきましては11月6・7日に開催される市民まつり、この時はコミュニティバスの無料運行ということでまつりと同時にバスの周知に努めたいと思っております。

それから9番は市の広報に公共交通の特集を載せたいと考えておりますが、市長からも広報での周知を徹底するよとということなので話がありましたので、各コースを取り上げた記事などを考えております。

それから先ほど電鉄さんの上り旗設置をお話したところなんですが、パーク&ライドの利用促進ということで、熊本電鉄さんより合志市の方が勤務されていると思われる熊本市の企業に訪問してパーク&ライドのPRをしたいということで予定されております。

資料 3 の説明については以上です。

齋藤会長：はい、只今事務局から説明がありましたが何かご不明な点やご意見などがございましたら宜しくお願い致します。

上野委員：意見ではなくてお願いですが、9月の30日に良かったら出前講座を申し込みたいと思います。

齋藤会長：はい、事務局は宜しいですか？

坂井主幹：ふれあい館で13時半？はい。

齋藤会長：ではそういうことで。また予定はお返事差し上げたいと思います。他に何か？ はいお願いします。

松村委員：新須屋のパーク&ライドですね、まだ利用が少ないので、さらに利用促進のために企業訪問をやるということで準備をします。アンケートの結果は17台のうち半数の8台、9台の方が新規で、しかも市内の中心部に車で通われる方が新規でパーク&ライドという状況です。非常に効果のある部分だと思います。この部分については煮詰めていきたいと思います。

それからもうひとつお知らせです。北熊本駅で福岡などにJRを使って行かれる方を対象として、パーク&ライド24時間300円で利用できるようになりましたので、もし機会がありましたら利用してみてください。福岡方面へ行かれるときなど便利だと思います。その辺もお知らせしておきたいと思います。宜しくお願いします。

齋藤会長：はい、ありがとうございます。他に何かありませんか？

宜しいですか？それでは啓発活動については説明申し上げました通りに今後取り組んでいきたいです。宜しくお願いします。

それでは4番の湯ったり乗ったり弃天カードについて説明申し上げます。

坂井主幹：一番最後のページになります。資料の4です。

湯ったり乗ったり弃天カードについて説明致します。

前回の協議会でもお話しましたが、10月から定期券を発行するというのでこちらは試行ということで実施致します。

あくまで弃天カードやコミュニティバスの利用を増やすということが目的となっています。その定期券を使ってユーパレスの入浴料が200円になりますが、この間の協議会でも

話がありましたけど、老人憩の家やみどり館、そういった施設の使用料の改定が必要という判断があればそういったところの改定について検討ということで対応したいと思っています。

資料の4ですが、実際にこういった取り扱いの仕方をしますということで、前回と少し変わったところは券種を1ヶ月券の1600円から3ヶ月券に限定しています。有効期間につきましては発行した日から3ヶ月。発行場所については2箇所です。常時販売しているのは熊本電鉄の辻久保営業所、営業時間の午前8時30分から午後6時までには発行しています。発売開始については9月21日から発行を開始したいと予定しております。

もうひとつユーパレス弃天なんですけど、こちらは出張販売のみ予定しておりまして、まだ案ですが、9月27日から10月1日、それと10月4日から10月7日の午前10時から午後1時までの3時間を予定しています。その後の販売につきましては3ヶ月券になりますので3ヵ月後ということで考えまして、その日にちについてはユーパレス内で周知したいと思っています。それから申請するのに必要なものは年齢や住所の確認できる免許証や保険証、あとこれに限りませんが、写真もつけたいと思っています。

当初、ユーパレスで写真を撮ってパソコン等で対応したいと考えておりましたが、辻久保営業所におきましては、ご本人さんが持ってこられた写真しか取り扱いをされておりませんで、忘れてこられたときには実費を取られてポラロイドで撮られてるみたいなので、そこと関連がうまくいかなくなりますのでユーパレスの販売においても写真を持ってきていただいとということ考えております。資料の4については以上です。

齋藤会長：はい、弃天カードにつきましては前回の協議会で決定しておりましたので、カードの取り扱いといいますか、内容については今説明したところであります。

これについて何かご質問等があればお願い致します。宜しいですか？

はい、ではこういう形で今後弃天カードを発行して運行していきたいと思えます。

次に5番のその他です。事務局からお願いします。

中村課長：それではその他ですが、次回の第14回協議会の開催日につきまして説明したいと思えます。次回は9月の28日、9時30分から合志庁舎の2階の大会議室で行いたいと思えます。お間違えのないようにご参照のほど宜しくお願い致します。

当日はバスが出来上がってきてくると思えますので、会議が終わった後に試乗していただく予定をしておりますので、お時間の調整をお願い致します。

10月1日から運行が始まりますが、1日に出発式を予定しております。午前中に行いたいと思っておりますが、まだ時間等は煮詰めておりません。計画が整い次第、皆様方にお知らせしたいと思えますので、宜しければそちらのご参加もお願い致します。

また詳しいことは事務局からお知らせ致します。宜しくお願い致します。

齋藤会長：はい、それでは委員さんのほうからその他で何かございませんか？

宮川委員：障害者の場合には1種と2種があるのですが、2種の場合は介護が認められているんですね。

バスに乗った場合、1種があれば本人と同じ扱いにするんですか？2種だったら無理だと思いますけど。

それからユーパレス弃天で使う場合、どうしても介護が必要な方が一緒に行かれた場合、その方は定期券も何も持たないんですね。その場合に200円に対応するのか、それとも400円か、それを確認したいのですが。

齋藤会長：はい、今の件について事務局から何かございますか？

坂井主幹：まずお風呂のほうなんですけど、実際1種を持たれている方というのは大浴場とかにも入られるんですか？

宮川委員：はい、介護が必要な方もおられる。

だからそういう方たちがどうしても本人が行きたがって介護が必要だからということで大浴場に入った場合に介護者がいないと危ない。そういう時にどうするか？

合志市の障害者の3分の2くらいはたぶん1種なんですよね。そういう方たちが利用された場合にどういう扱いにしていくのか。

坂井主幹：実際今、ユーパレスとかで介助者が入れられるとき、料金はどうされてますか？

宮川委員：ユーパレスは減額になっていません。ただ他のところでは半額にされている施設もあります。その点を検討していただきたいのですが。

中村課長：わかりました。次回の28日までに検討させていただいて、そこで話すということで宜しいでしょうか？

宮川委員：もしも定期券を本人が持っていて、介護者が持たない場合は市の半額で乗せていただけるかというのがありますので、入浴の場合と2つお願いします。

中村課長：はい、わかりました。

齋藤会長：はい、他にございませんか？

無いようでしたら議題が全て終わりましたので、協議会をこれで終わらせていただきたい

と思います。

中村課長：はい、それでは本日はラッピング審査と議題の審議まで長時間に亘りまして大変ありがとうございました。これをもちまして第13回の地域公共交通協議会を閉会したいと思います。ありがとうございました。